

臼井小の子どもたちは、明るく素直で真面目です。言われたことは、そのまま受け止めて素直に従い、行動してくれます。とても純粋な子どもたちです。農家が多く、大家族で祖父母もいて、穏やかに生活する環境の家庭が多いためでしょうか。しかし、一方で、自分に自信がなく、自ら何かを学んだり、行動を起こそうとしたりするエネルギーがたりません。「自分」という個性を強く意識できず、安易にメディアに依存する傾向が見られます。

よって、臼井小学校は、子どもたちに、

自分や相手を大切に、その良さ「いいね」を見つけ合うことで自己肯定感を高めさせ、伝統のある地域と一緒に学びを進め、その中で地域に愛着や親しみをもち、成長していく学校を創ります。

【教育目標】 ゆたかな学び かがやく笑顔

【目指す子どもの姿】

うきうき・わくわく

すすんで学ぶ

いいね がいっぱい 臼井小

【重点目標】 「いいね」を見つけ合い、自分も相手も大切に、よくかかわり合い、学び合う子どもを育てる。

以上の方針の下で、臼井小学校にしかできない以下の2つの活動を推進していく。

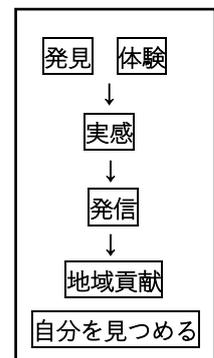
両者どちらも、**つづける** **見直す** **整理する** をその都度実行し改善していくことで、臼井小学校の発展的で持続可能な学びを実現していく。(カリキュラム・マネジメントの視点)

① 臼井のいいね **体験活動** (総合的な学習の時間・生活科)

○地域とかかわりながら、臼井の良さを調べ、体験し、発見し、発信する。

○地域の方と共に見守り、多面的・多角的に見取り、育てる。

- 1年 さつまいもの苗植え・焼き芋・昔の遊び体験・花の苗植え
- 2年 野菜の苗植え・町探検・生き物採取・昔の遊び体験
- 3年 狸の婿入り行列・花の苗植え・臼井地区探検
- 4年 棒踊り・花の苗植え・白蓮濁・揚水場学習・信濃川調査
- 5年 田植え、稲刈り、農業体験・臼井の食・地域の文化体験
- 6年 地域職場見学・体験学習・地域の文化体験・キャリア教育



② 臼井のいいね **豊かな学び** (すべての教育活動)

○知・徳の両プロジェクトが核となり、全ての活動で豊かな学びを実現する。

- 【知】
 - ・自分の考えをもち、他とかかわることで「主体的で・対話的で深い学びに結びつく授業づくり
 - ・「わかる・できる」成就感を味わい、うきうき・わくわくするような授業づくり
 - ・「臼井のいいね体験活動」を中核とした「臼井小年間カリキュラム」の実践と改善(教職員の願いを連携・集約する「カリキュラム・マネジメント」の実施
 - ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けたICTの効果的な活用
- 【徳】
 - ・「自分のいいね」「仲間のいいね」を見付け、認め合い、伝え合う場づくり(自己有用感を感じ、他者の承認を自覚することで、自己肯定感を高める活動)
 - ・自分の役割を考え、協力しながら、やりとげようとする意欲の醸成
 - ・縦割り班(たけのこ班)活動の充実
 - ・いじめ防止 児童アンケート、教育相談の実施

○特別支援教育部や体育・保健教育部、その他分掌の各部が連携し、上記プロジェクトと一体となって目標を実現する。

上記内容を体系化したものを臼井小学校 学校教育ビジョンとする。(次ページ)

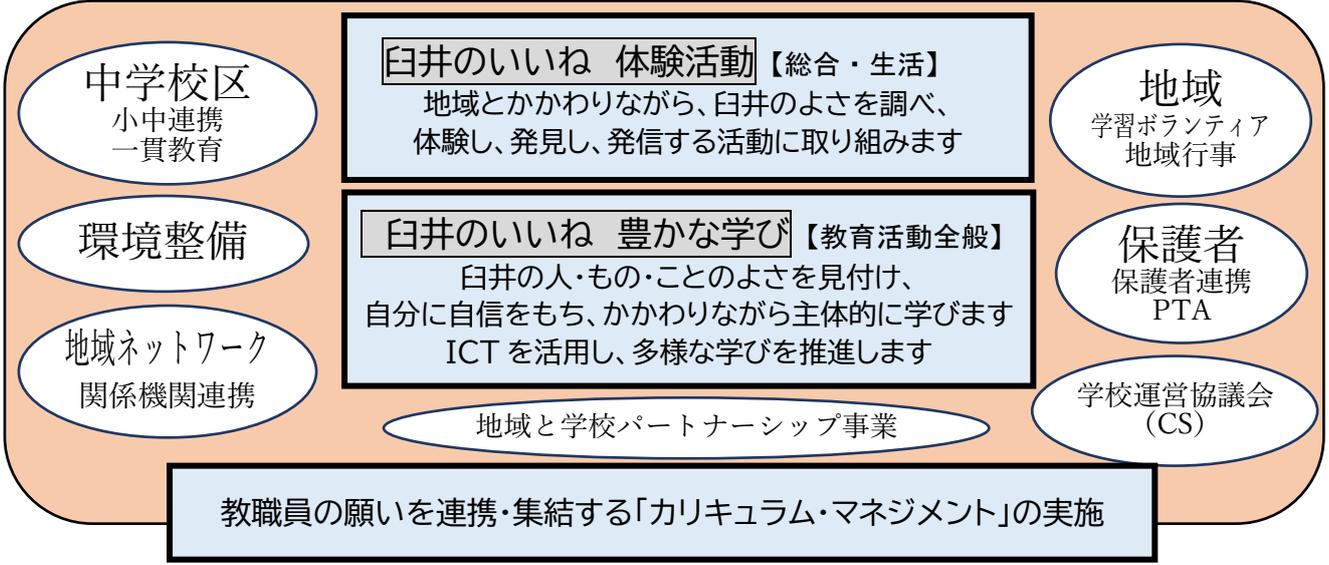
教育目標
ゆたかな学び かがやく笑顔

目指す子どもの姿・学校の姿

うきうき・わくわく
すすんで学ぶ
いいね がいっぱい 臼井小

→ 主体的に学ぶ姿の育成
→ 自己肯定感の向上

【重点目標】「いいね」を見付け、自分も相手も大切に、よりよくかかわり合い、学び合う子どもを育てる



【チーム臼井】 臼井小の教育活動の充実

プロジェクト知

【めざす姿】
かかわりながら 学びを深める子

【手立て】

- ・自分の考えをもち、他とかかわることで深い学びに結びつく授業づくり
- ・「臼井のいいね！体験活動」を中核とした「臼井小年間カリキュラム」の実践と改善
- ・ICTの効果的な活用

プロジェクト徳

【めざす姿】
自分のよさを大切にし
ちがいを認め合える子

【手立て】

- ・「自分のいいね」、「仲間のいいね」を見付け、認め合い、伝え合える場づくり
- ・自分の役割を考え、協力しながら、やりとげようとする意欲の醸成

特別支援教育

- ・UDの視点で、誰もが安心して学習できる基礎的環境整備の実施
- ・情報交換の場の設定による合理的配慮の共有

体育・保健教育

- ・「親子すくすく元気アップ週間」を活用した小中連携による よりよい生活習慣づくりの取組
- ・進んで運動する子の育成
- ・体力向上を目指した授業づくりと環境整備

事務・管理

- ・教育活動の円滑実施のための全職員による学校事務・管理の迅速、適正、円滑な運営

臼井小学校の教育活動の評価について

市教育委員会からの「学校評価」に関する通知を受け、後日提案される校内の学校評価計画に基づいて、教育ビジョンに示された教育活動の評価を、PDCA サイクルシステムを利用し、実施します。(市教委からは、新しく「学校園教育ビジョン評価シート」と名称が変わりました。)

視点は、以下の3点とし、教育ビジョンに示された内容について、評価していきます。

①「知」プロジェクトの視点……知プロ職員を中心に進める。

②「徳」プロジェクトの視点……徳プロ職員を中心に進める。

③当校の課題の視点

- ・ここ何年もの課題となっている「児童のメディア依存」の実態を改善していかなければなりません。保健・体育部と管理職、PTAを中心に、これまで同様に対策を検討し、取り組んでいきます。

その他

★教育機関の動向を受けて

1 文部科学省 「新しい学習指導要領の理念の実現」について

- ・「生きる力」を育むために、「主体的・対話的で深い学び」と「カリキュラム・マネジメント」の重要性を挙げていますが、当校の教育ビジョンを推進していくことが、理念の実現に繋がっています。自信をもって実践していきます。
- ・学校は、目指す資質・能力の三つをバランスよく育むことを重視しています。「学びに向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」ですが、学校としては、特に「学びに向かう力、人間性」に力を注ぎます。知識、思考も大切ですが、テストの点数に一喜一憂するより、生涯を通じて豊かな人生を送るためには、学ぶことが楽しいと実感して、自分から進んで学ぼうとする態度が身につくことの方が大切だと考えます。数字に出ず、量的評価がなく目に見えにくいですが「学びに向かう力」を育てることに力を注ぎます。ドリル的な学習ばかりせず、かかわり合うことでレベルの高い学びを楽しむ経験を実感させていきます。今年度の目指す子ども像に示す、「うきうき・わくわく」する授業をぜひ実現させてください。以上の観点から、授業学習指導要領理念の実現に直接つながりにくいNRT 学力検査は今年度から実施しません。その分、授業をより大切にしていきます。

2 中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」について

- ・「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を実現する…相矛盾する学びのようですが、これには、ICTが不可欠です。苦手だろうが得意だろうが関係なく、ICTは活用しなければなりません。但し、今、とても気になっているのは、ICTを過大評価し、多用する傾向があることです。ICTは万能ではありません。ICTを使ったから学力が上がったという実証はありません。多様な考えを知ることができたり、効率的に情報を収集したりすることができるメリットはあります。(実は、安直に手に入れた情報や学びはすぐに忘れてしまい、定着がないとする説もあります。) 要は、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることが大切。効率よくICTを活用することを念頭に置いて、授業を進めていきます。ICTは万能ではありません。完璧な教材でもありません。くれぐれもデジタルかアナログか、遠隔かオフラインかといった、「二項対立」のスパイラルな罫にはまらないようにしなければなりません。これからは、ますます様々な方法による情報の収集や活用、多様な経験(ハイブリッド型)が学びを豊かにします。

3 令和5年度 「新潟市立学校園教育の推進」について

- ・今年度は、各学校の教育ビジョンの実現の後押しを全面的に出してきました。(印刷配付しました。近日タブレットにもアップされるはずです。活用ください。)ただし、教育委員会は、国の動向や市の子どもの現状、未来の教育を見据え、市の教育ビジョンを基にしたうえで、学校のビジョンを支援します。さらに「教職員の願いを連結・集結するカリ・マネ」と「地域総がかりで支えるCS」と「教育DXに伴うICT利活用」を学校園の運営の基盤と考えています。当校のビジョンにはそれが示されていますので、臼井小の教育ビジョンを確実に実施していきます。
- ・教育委員会の5つの目標を意識します。1 確かな学力の育成、2 豊かな心と健やかな身体の育成、3 創造性に富み世界と共に生きる力の育成、4 インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実、5 学びをつなぐ体制づくり。これは、当校の学校教育ビジョンに反映されていますが、各担当者が、確実に具現化を目指します。

4 令和5年度 「新潟市立学校 GIGA スクール構想」について

- ・教育委員会が引っ張っていくスタイルは、令和5年度も続きます。GIGA 開きや新しいガイドラインについて、タブレット (iPad) のL-Gateに連絡がきています。熟読ください。ガイドラインは完全版がGIGA サポートウェブから常に見ることができますが、ダイジェスト版は見られません。104ページもある完全版に比べ、ダイジェスト版の方が見やすいので、保存ができるといいです。学校にもデータで来ていますので共有フォルダ内で共有します。
- ・コンピュータ1人1台時代を生きる子どもたちです。単純なICTの便利さや情報モラル教育だけを教えるのではなく、デジタル・シティズンシップ教育※を全面的に推進します。(※日常的にICTの利活用をすること、多様性を理解する学びであり、公共のマナーをポジティブに学ぶこと、人権教育であり創造性を育成する学びであること、等を学ぶ教育。)
- ・R5年度から情報活用能力の指針がでましたので活用します。(レベルに応じた情報モラルの目指す姿、学年部別の情報スキルの具体内容等が明記されました。)
- ・そのほか、キャリアパスポートがロイロノートで作成・管理、図書館の貸し出しシステムが「TOPNET」に新しく変更、新潟市電子図書館から電子書籍がタブレットからも貸し借り可能、5年生以上の英語と算数のデジタル教科書無償提供、デジタル百科事典「ブリタニカスクールエディション」の無償利用、等が示されているので、GIGA 推進部から適宜情報を発信していきます。

5 市教委学校支援課 学校訪問について

- ・今年は、管理主事訪問の年です。計画訪問はありません。ただし、「知」プロジェクト部、また他の職員の方で、指導者を招いての授業研究の要望が出てくれば「要請訪問」は可能です。質の高い授業について研修するチャンスは設定することが可能です。また、5年ぶりに新採用職員が着任しますので、同僚性を生かして全職員で支えていきます。OJTを通して、日常的な実践を有意義な研修ととらえ、強く意識的に業務を行います。

★職員の働き方改革、同僚性、等について

1 職員の会議について

- ・会議は、できるだけ回数を減らします。時間も職員会議を除いて30分以内を目指します。会議は、個人の時間を奪っているという自覚をもち、能率的で、建設的・生産的な会議を目指します。

2 同僚性の活用

- ・とても大切です。仕事をするうえで、自分の視野やスキルが何倍も広がります。人に与えること、教えることは損ではなく、何倍も自分に返ってきます。良かった実践、スキル、アイデア、データはどんどん広めていきます。伝えていきます。働き方改革の視点からもデータの提供や共有は必然です。
- ・行事もそうですが、普段からいろいろな先生方の実践や指導ぶり、かかわり方に興味をもって、その良さを伝え合います。**職員間も「うきうき・わくわく」「すすんでまなぶ」「いいねがいっぱい臼井小」**です。他者による承認自覚により、自己有用感や自己肯定感が高まります。声に出さないと伝わりません。書くよりもまずは、声に！

3 働き方改革 時間を有効に使う

- ・たくさん時間をかけて仕事をやれば、いいわけではなく、職員の健康が第一で、それ以上の貴重なものではありません。長時間による勤務は予想以上に体に負担がかかります。体の忙しさは、心の忙しさにつながり、心を亡くします。職員の心の疲弊は、子どもたちに決して良い影響を与えません。時間を有効に使い、能率的に仕事を進め、ゆとりの時間をつくり、健康な体で子どもたちに接していきます。そして仕事の優先順位をつけて、効率的に仕事を進めます。
- ・今年は、さらに印刷配付の業務を減らし、ペーパーレス化を進めます。学校だよりを始め、各種お便りは配信メールを活用します。職員配付文書も、一度見を通すだけで済む文書は、校内掲示板を積極的に利用します。

家庭・地域・関係機関との連携について

1 教育相談の充実

- ・定期的な面談は、子どもたちとは年間2回、保護者とは2回（希望制を含む）実施します。直接顔を合わせて1人1人誠実に対応していきます。また、学校生活について悩みがないか生活アンケートを年間6回程度実施します。いじめの未然防止、早期発見に対応していくためでもあります。また、学級への満足度を調べるQU調査については、「学級力調査」も候補に入れて、今後どのように取り組むかプロジェクトで検討します。

2 地域との連携

- ・地域あつての臼井小です。地域の方は、「臼井のいいね体験活動」の講師として、指導者として、共に学校を創っていただく協働者です。地域教育コーディネーターを中心に融合して当校の教育活動を支えていただきます。例年やっているからと言って、丸投げしてお任せすることなく、事前によく地域教育コーディネーターと話を詰めて、講師になる地域の方と連絡を密にして、進めていきます。地域の「人・もの・こと」を大切に、連携を密にしていきます。

3 関係機関との連携

- ・臼井中学校とは、小中連携の事業として、小中連絡協議会（交流会・各部会・情報交換・合同研修）やコミュニティスクールを連携して取り組みます。小・中学校を通して9年間のスパンで子どもたちを見取っていきます。
- ・地域の様々な機関（保育園、駐在所、コミ協、青少協、区役所、自治会等）と連絡を密にして、情報を共有し、社会に開かれた学校を目指します。

未来をつくる子どもたちの教育の質を上げるには、臼井小独自の教育のビジョンを明確にし、職員全員が同じ方向に向き、チーム臼井として一丸となって取り組んでいくことにつきます。

そして、先生方が一人一人ゆとりをもって、自分らしく仕事をする 것도大切です。働き方改革が進んではいけるものの、効率化できる業務があれば提案していき、職員のワークライフバランスを充実していきます。

臼井小の子どもたちの成長のために、以上の方針のもとで1年間ともに取り組んでいきます。